

●こんなところで視程障害は発生しやすい

周囲の開けた平坦な地形の道路



吹雪をさえぎる樹木や建物が少なく、周囲が開けた平坦地では道路に吹き込んでくる飛雪が多くなりやすいので、視程障害や吹きだまりが発生しやすくなります。特に、畑や水田、牧草地が広がっている平地では、冬には広い雪原になるので、風の強いときには注意しましょう。



峠区間や急峻地形の道路

峠区間や急峻地形の道路では、気象の変化も著しく、短い区間でも視程が急変することがあるので、走行する時には注意が必要です。

切土区間や盛土との境の区間

深い切土区間では、切土の上の平地で発生した飛雪が道路上に吹き込むことによって、吹きだまりや視程障害が引き起こされることがあります。また、切土と盛土との境の区間では、盛土から切土に吹き込む風によって視程障害を招くこともあります。

視程障害時の運転に役立つ基礎知識

3

視程及び視程障害とは？

●視程について

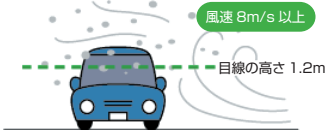
空を背景に黒っぽい対象物（視角 0.5～5°）が、目視で視認できる最大の距離のことをいいます。

●視程障害について

空気中に浮遊物があると、それによって光が散乱・吸収・反射されて減衰するため、私たちの目に届く光の量が少なくなり、周りの景色が見えづらくなることを視程障害といいます。降雪や吹雪によって雪が舞っている場合も霧同様に視界が悪くなりますが、霧のような小さな水滴とは異なり雪片は目に見えるほど大きいので、その視程障害も少し異なります。

●こんなとき視程障害は起きやすい

気温が低く風が強いとき



風速 8m/s 以上

目線の高さ 1.2m

気温が低く、風速が 8m/s 以上になると、雪面の雪が目の高さ以上に吹き上げられるようになり、これを高い地吹雪と呼びます。高い地吹雪では、乗用車の目線の高さ 1.2m を越えて雪が舞うようになるので、ドライバーの視界を奪い、厳しい視程障害を及ぼす場合があります。

道路の雪堤が高いとき



目線の高さ 1.2m

路側の雪山（雪堤）が高いと、そこから吹き出す飛雪がドライバーの目線に達するので、視程障害となります。降雪量が多く路側の雪山（雪堤）が高くなっているときには、風があまり強くなくても視界不良に注意が必要です。

大型車からの雪煙に注意



大型車が巻き上げる雪煙によって視界が一瞬にして奪われることがあります。大型車の追い越しによる雪煙では、一瞬のうちにホワイトアウトの状態となり、不意につかれることもあります。道路上に新雪が積もっている場合には、対向車や追い越し時の雪煙に注意が必要です。

●ホワイトアウトに注意



物が周囲と区別して識別できるためには、コントラストに差があることが重要。周囲が白一色となる冬道では、道路と景色の区別がつけにくくなるため、実際の視程よりかなり悪く感じることがあります。時にはホワイトアウトと呼ばれるように、白い雪のほか何も見えない状態になることがあり注意が必要です。

冬道運転ガイド 吹雪ドライブのコツ

知って安心、安全ドライブ



CONTENTS 1

冬道運転テクニック

CONTENTS 2

冬道運転の心得

CONTENTS 3

視程障害時の運転に役立つ基礎知識

このパンフレットに掲載されている情報は、インターネットサイト「北の道ナビ」(PC版)でも見ることが出来ます(日本語のみ)。安全で快適なドライブにご活用下さい。



URL
<http://northern-road.jp/navi/info/drive.htm>

北の道ナビ

ドライブに役立つ情報が満載!



二次元コードで携帯サイトに簡単アクセス!
<http://n-rd.jp/>
(PC&携帯3社対応)



1 冬道運転テクニック

出典：「冬道安心ガイド」 (財)北海道道路管理技術センター

基礎編

●坂道走行

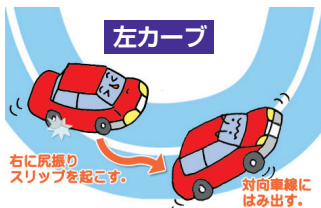


上り坂では、あらかじめ適切なギヤにシフトダウンをし、アクセルを一定に、前車との距離を十分にとります。



下り坂では、事前に減速、シフトダウンしてエンジンブレーキを効かせます。車の重心が前へ移動し後輪が軽くなるので急激なブレーキやシフトダウンをすると尻振りを招きます。

●カーブ走行



カーブ手前で十分に減速し、控えめな速度を一定に保って走行。左カーブでは、右に尻振りスリップを起こし、対向車線へはみ出しやすいことに注意。右カーブでは、左に尻振りスリップを起こし、路外に逸脱しやすいことに注意。



●ブレーキング

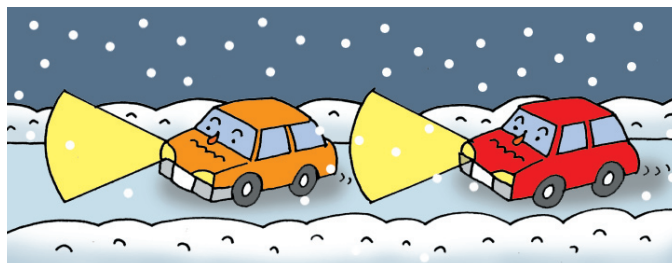


急ブレーキをかけるとタイヤがロックしてグリップを失い止まれません。ブレーキはソフトにじわっと踏んで、転がして止めてください。(ソフトブレーキ)

路面状況に注意を

冬道では、雪や氷がなくても日陰や橋の上、トンネルの前後が凍結していることがよくあります。また、特に夜間や早朝の気温が低いときは路面が黒く見えても凍結している(ブラックアイスバーン)ことがありますので、十分注意をしてください。

●ライト点灯、スピードダウン、車間距離!



相手に自分の存在を知らせることが大事。ライトをつけましょう。前方の車が急に止まるかもしれません。車間距離を十分とってスピードダウン。

●大型車の雪煙に注意!



トラックなどの大型車が巻き上げる雪煙で視界が悪くなります。すれ違う時や追い越される時は、ワイパーを早めに作動し、減速を。

●車に雪が付いたら、安全な所に止まって落とす。



ヘッドライトやテールランプについた雪で、あなたの車が相手から見づらくなります。また、ワイパーに付いた雪で拭きが悪くなります。道路から離れた安全な所で雪を落としましょう。

四輪駆動車だからといって過信しない

4WD 車は発進や走行の安全性では 2WD に比べ有利ですが、車の重量が重いため過信は禁物です。カーブや交差点の手前では十分にスピードを落として走行してください。



2 冬道運転の心得

●冬道運転の必需品

冬道を運転するための必需品(スコップ、スノーヘルパー、牽引ロープ、長靴、防寒服、手袋、毛布等)を車に準備しましょう。



▲冬道運転の必需品

●出発前

事前に道路・気象情報を収集し、ゆとりある運転計画をたてましょう。

飲み物や非常食等を用意するとともに、誰かに行き先を伝えておきましょう。

吹雪に巻き込まれても対応できるように、十分に燃料があるのを確認しましょう。

●走行中

「道の駅」やラジオ等で、道路・気象情報を随時収集しましょう。また、吹雪が激しいときは、「道の駅」やパーキングエリア等で休憩し、無理のない運転を心がけましょう。



▲国道・道道の通行止め情報
(北海道開発局)

URL <http://info-road.hdb.hkd.mlit.go.jp/>

●もしも吹雪で動けなくなったら・・・

視界が悪いため、不用意に車から出ると後続車にはねられたり、動けなくなった車と後続車に挟まれることがあります。外に出る際には周囲に気を配りましょう。

マフラーが埋まった状態ではエンジンをつけてはいけません。

マフラーが雪に埋まると車内に排気ガスが逆流し非常に危険です。マフラー付近を定期的に除雪し、換気を十分に行いましょう。

吹雪で周りが全く見えないときは、車から離れないようにしましょう。

車から離れる際には、除雪や救助活動の妨げにならないよう、連絡先の書いた紙を車内におき、車の鍵を付けておきましょう。



▲「北の道ナビ 峠情報」とライブカメラ画像(画像提供:北海道開発局)



▲マフラー付近に注意!

避難時の連絡先

※車から離れる際には、下記に連絡先を記入して、この用紙を車内に置いてください。

電話番号

氏名

住所